

### ○ タイシコーポレーション、専門外食店などでイベリコ豚のおいしさ伝える ショートメールを活用した飲食店無断キャンセル防止サービスも開始

イベリコ豚専門の外食店「IBERICO-YA」などを事業展開するタイシコーポレーション(大阪市西成区、山本真三社長)は6月20日から、飲食店の無断キャンセルを防止する「ショートメール予約サービス」を開始して



いる。同サービスを試験導入した外食店では、無断キャンセルの発生率が2.1%から0.2%に大きく減少したという。山本社長(=写真)にサービスの詳細と、今後の事業展開について話を聞いた。

同社が東京・大阪で運営している「IBERICO-YA」では、2~3年ほど前から予約当日に連絡もなく、来店もしない無断キャンセルが発生し始め、その数も増加していた。イベリコ豚専門店では単価が高く、限られた席数で店舗運営をしていることから、「無断キャンセルの発生は営業面で非常に大きな影響があった」。多い店だと1カ月あたり、「売上ベースで20万円ほどの影響が出ていた」という。対策として、予約客に対して電話をかけていたが、他の業務があることやスタッフの精神的な負担もあって、電話をしなくなることがあった。また、メールではなかなか読まれないことから、ショートメール(SMS)で予約確認を送るサービスを思いついた。

SMSを送るようになってからは無断キャ

ンセルがなくなり、来店した翌日にSMSで御礼を送ることでリピート率を上げることができた。また、無断キャンセルがなくなることで、「食材の廃棄がなくなり、フードロスの削減にもつながっている」。SMSの送信は障害者支援施設に業務を委託。今後は「ショートメール予約サービス」を他の外食店に対してパッケージ化して販売することを計画している。

同社では外食事業のほか、イベリコ豚のギフトセットを販売するギフト事業、イベリコ豚の貿易事業など、イベリコ豚に特化した事業を展開しており、グループ会社には食肉卸の大志プランがある。山本社長は「自分の使命はイベリコ豚を広めることで、イベリコ豚のおいしさを伝えていきたい」と話す。



今後は、アジア圏を中心とした海外でもイベリコ豚の需要が高まると見ている。日本の事業

展開をモデルに、外食事業でイベリコ豚の認知度を高めて、食肉卸を事業展開することでアジア圏での「イベリコ豚の販売拡大を目指していく」考えだ。

### ○ 愛知県豊田市の8例目豚コレラ発生農場が、全国初となる経営再開

愛知県は19日、豊田市の豚コレラ全国8例目の農場で経営再開をした、と発表した。豚コレラ発生農場での経営再開は全国で初となる。8例目農場では5,620頭飼養し、2月6日に豚コレラが発生し、12日に防疫措置を完了していた。発生農場の出荷先の田原市、長野県宮田村・松本市のと畜場、岐阜県恵那市、大阪府東大阪市、滋賀県近江八幡市の関連農場などでも豚コレラ陽性となり、発生農場と合わせて1万5,000頭以上を殺処分していた。

発生農場では防疫措置完了後、5月13日までの90日間農場を封鎖し、ウイルスを完全に

封じ込め、5月14日に農場内の施設などの豚コレラ検査を実施し、陰性を確認。5月15日から6月5日にかけて施設の清掃・洗浄・消毒を実施し、6月6日に再び農場内の施設などの豚コレラ検査を実施し、陰性を確認した。6月28日には農場の清浄性を確認するために試験的に豚を30頭導入し、7月17日に導入豚の検査を実施し、陰性を確認した。

そのため、7月18日に母豚8頭を導入し、下旬以降に導入した母豚の出産、8月以降は新たな母豚、子豚の導入を予定している。